

ジオ太とジオ美の旅

⑮ 生鼻崎(おいばなぎき)の露頭

「今回は縞模様の大きな崖がそびえ立つ生鼻崎の露頭観察に行こうか」「船川から脇本に向かう国道 101 号のトンネル付近のジオサイトね」。2人は青空が広がる中、さっそく出かけました。

巨大な断崖が見えてきました。ジオ美ちゃんは「砂岩層と泥岩層が交互にいくつも重なっているわ。迫力がある」とその露頭を指差しました。ジオ太くんも「地層が 30° ほどの角度で東の方に傾いているね。白っぽいのは泥岩層で、茶色いところは砂の層だよ」と断崖を見上げて解説を始めました。

「粒の大きさからして砂は浅い海、泥は深い海に堆積するのが基本だけど、どうしてこの露頭は互層になっているかしら」とジオ美ちゃんは疑問を持ちました。「ここはね、泥の堆積した海底に、浅いところに堆積していた砂が地震などによりその後、深いところに運ばれたんだね。そしてその後また泥が堆積するということが繰り返されてこのような互層になったのさ」とジオ太くんはジェスチャーを交えてジオ美ちゃんに説明しました。「地震などで海底地すべりから発生した乱泥流により砂が深いところに運ばれたということね」とジオ美ちゃんも納得した様子です。

「当時は近くに浅い海のある深海だったということか」「そして海底の隆起によって次第に海が浅くなっていった時代ということね」と2人は当時のイメージを膨らませています。生鼻崎の露頭は落石が多いので近寄るのは危険。そのため離れたところから観察しました。

「地球の動きってダイナミックね」「地球の大地はつねに動いているんだ」と話しながらジオパークを学ぶ2人の姿は今まで以上に頼もしく見えました。

